

2学期始業式

皆さん、おはようございます。37日間の夏休みを終わり、今日からいよいよ2学期が始まりました。皆さん、夏休みはどのように過ごしましたか？夏休みを振り返り、どんな夏休みだったか、私は次の2つの言葉で表したいと思います。一つは「感動」、もう一つは「災害」です。まず、「感動」では、7月末より開催された東京オリンピック、そして8月24日から始まったパラリンピックは、開催について反対意見もある中、異例の「無観客」開催となりました。しかしながら、選手たちはこれまでの努力の成果を出し、また出場できることに「感謝」の気持ちを表し、私たちに感動的な数々のドラマを見せてくれました。また、現在行われている夏の高校野球選手権大会では、わが滋賀県の近江高校が大躍進をしています。昨日も神戸国際大学付属高校を破りベスト4入りを果たしました。選手たちの一生懸命のプレーに本当に感動をしました。

二つ目の「災害」については、二つあります。一つは、「自然災害」、もう一つは、「感染症による災害」です。自然災害では、夏休み前半は猛暑続きでしたが後半は大雨が続き、全国各地で記録的な雨量を計測しましたが、それにより土砂災害が発生し、命を落としたり、住む家を失ったりするなど大きな被害が出ました。感染症による災害では、本日より滋賀県に緊急事態宣言が発令されましたが、新型コロナウイルス感染症第5波が猛威を振るい、全国各地で感染者数の記録を更新しています。医療現場も崩壊寸前でまさしく災害級の感染状況となっています。一日も早い収束や復興を祈りたいと思います。

さて、そんな中での2学期のスタートです。皆さんは、この2学期をどのように過ごそうと考えていますか。おそらく2学期には、様々な学校行事があるのでがんばりたいと考えている人も多いのではないかと思います。しかしながら、コロナの猛威が続く中、行事の変更や見直しをしなくてはならなくなりました。今日、文書を持って帰ってもらいますが、市教育委員会の方より、9月中の行事は10月以降に延期するように連絡がありました。

そのため、9月25日の体育祭や9月末の3年修学旅行についても10月以降に変更することにします。文化祭についても、合唱コンクールは中止となりましたが、具体的な内容についてはまだ決まっていない状態です。決まり次第お伝えすることになりますが、こうした行事には生徒会や学級・学年と言った集団の力、自治の力が試されます。

このような2学期ですが、それを有意義なものとするために、皆さんにこの言葉を送ります。それは、『「ならでは」の2学期』ということです。

2学期は、実りの秋と言われるように、1学期に積み上げてきた集団生活の成果を発揮する時期となります。2学期ならではの頑張りが学校生活のいたるところで見られることを期待します。特に、「あすこそは」の実践もやらされてやる「偽物」ではなく、自分から進んで実践できる「本物」であってほしいと思います。

また、コロナ禍で学校行事や学校生活に様々な影響が出ていますし、今後もそれが予想されます。このような制限の中にあっても、感染対策を徹底しながら、コロナ禍の中でできること、コロナ禍

の中でしかできないことを考え、アイデアを出し合って工夫を凝らし、新しい発想で行事を作り上げていき、すばらしい経験、思い出をつくってほしいと思います。そして、「コロナ禍ならではの」の行事や学校生活にしてほしいと思います。

また、それぞれの学年においても、それぞれの強みや持ち味があります。それらを生かして、「1年生ならではの」「2年生ならではの」「3年生ならではの」と言われるような活躍に期待したいと思います。

そして、それらのすべての頑張りが、結果として、「高月中ならではの」のすばらしい2学期につながるかと私は確信しています。チーム高月中としてともに頑張りましょう。

最後に、皆さんにお願いがあります。それは、「コロナに負けない」ということです。この「コロナに負けない」というのは、2つの意味で負けてほしくないと思っています。

一つは、文字通りコロナの感染症にかからないということです。現在、猛威を振るっているデルタ株は、これまでのものと違って2つの特徴があります。一つは、感染力が非常に強いこと、もう一つは若い世代の感染者が多いことです。今日の学活で、担任の先生から感染対策についてお話があるかと思いますが、感染予防の意識レベルを一つも二つもあげて生活しなければなりません。自分のためにも、また仲間のためにも、家族のためにも感染対策や健康管理を徹底し、感染症にかからないようにしましょう。

そして、もう一つの「コロナに負けない」は、コロナの感染によって引き起こされる「差別」や「偏見」をなくすということです。残念ながらコロナの感染症にかかったとしても、悪いのはコロナの病気であってその人ではありません。我々は、病気を恐れるあまり、防衛本能から病気にかかった人を敵とみなし、排除する心理が働くことがあります。これにより、差別発言をしたり悪口を言ったりして、思いやりの心をなくしたり、お互いの信頼関係を損ねたりします。これは、まさしく私たち人間が「コロナに負ける」状態だと言えます。今後は、本校の仲間がいつ何時コロナに感染するかもしれません。皆さんがかかるかもしれないし、先生がかかるかもしれません。もし自分が感染したらどうかを想像し、差別したり悪口を言ったりするのではなく、相手を思いやった言動がとれるようにしてほしいと思います。高月中が一丸となって、このコロナに打ち勝ち、乗り越えていけるように頑張りましょう。以上で、先生の話が終わります。